

デロイト トーマツの人

テーマからインタビューを探す

プロフェッショナルたちは、なぜデロイト トーマツを選んだのか。

仕事内容、働く環境、目指すキャリアなど、デロイト トーマツで働くプロフェッショナルたちの声をお伝えします。

異業種からの転職／キャリアチェンジ



クライアントの目標実現に向けて協働し、常に努力をして最大の果実を得ようとする姿勢が成長の糧になる

合同会社デロイト トーマツ
シニアマネジャー

異業種からの転職／働く環境・魅力



100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

合同会社デロイト トーマツ
マネジャー

独立系SI企業出身／内部
監査・内部統制／異業種
からの転職／育児との両立
／働く環境・魅力

クライアントの目標実現に向けて協働し、常に努力をして最大の果実を得ようとする姿勢が成長の糧になる

合同会社デロイト トーマツ

シニアマネジャー

国内大学院／工学研究科／異業種からの転職／働く環境・魅力

M.K

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.どのような学生生活を送っていましたか？

A. 研究活動に明け暮れ、家と大学を往復する毎日を過ごしていました。①国家プロジェクトであったこと、②企業との共同研究であったこと、③運良く新聞やTV番組で報道されたこと、とラッキーである一方で典型的な理系学生生活を過ごしていました。文系の人達が忙しなく企業インターン等に参加している姿を傍から見ながら、焦りつつも何とかなるさ、と楽観的に過ごしていた記憶があります。

Q.なぜコンサルタントになろうと思ったのですか？

A. 上記の研究活動を進める中で、実りある技術が開発されても、それを世に広める土壌(=ビジネス領域)がないことには、世の中に貢献できないと感じました。どのようにビジネスを創るのか、経営とは何たるか、等ビジネス領域での興味関心が湧いてきた結果として、様々な機会を得ることができるコンサルタントを最初の職業として選択しました。

Q.これまで携わったプロジェクトの中でもっとも印象的なプロジェクトのエピソードをお聞かせください。

A. 1年前に取り組んだ某非営利団体における案件です。本案件はデロイトとしても非常に珍しい非営利団体に関する案件であり、また世界数十ヶ国にある拠点の業務を標準化/高度化する、ことを命題とした案件でした。スケールの大きさも然ることながら、世界中の人達と現地で意思疎通を図り、また自分の知らない世界を垣間見ることが多分できたため、最も印象に残っています。

Q.これまでで一番成長を感じた瞬間はどのようなときでしたか？また、成長に必要なこととはどのようなことだと思いますか？

A. クライアントから認められた瞬間に尽きると感じています。認めてもらえた結果の例としては、1人で海外出張に同行させて頂いたことや現場責任者として案件関与させて頂いたことが代表的です。自己実現を発端としてコンサルタントを職として選びましたが、クライアントの目標実現に向けて協働し、常に努力をして最大の果実を得ようとする姿勢が成長には必要と感じています。

Q.デロイトで働く魅力はどのようなところですか？

A. デロイトで働く魅力は、①手を挙げればやりたいことができる土壌や仕組みが整えられていること、②成果を認める文化が醸成されていること、③世界中の叡智にいつでもアクセスできること、だと感じています。グローバルで展開しており、且つケイパビリティの高い組織であるが故に、上記が実現されていると感じています。

Q.これまでのプロジェクト経験が現在にどのように生きていますか？

A.「如何に樂をするかという意識醸成」の経験が現在に活かされています。これは単に手を抜いて樂をする、という意味ではなく、ゴールに向けて最短経路を導き出し最小限の努力で手戻りなく効率的に成果を創出する、という意味です。



Q.就職活動を行う学生の皆さんへメッセージを！

A. 自分自身が社会人になった今だからこそ、下記3点を学生の皆さんにはお伝えしたいです。

- ①人脈が成功の鍵を握ることもあるので、就職活動では積極的に仲間を作ってください
- ②学生のうちに偉い人の話を聴く機会を有意義に活用して下さい
- ③コンサルタントが大変な業務であるのは事実である一方、やりがいはず必ずあると思うので果敢にチャレンジして下さい

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. キャリアチェンジには大きな“期待”と“不安”が伴うものと思います。デロイトには、皆さんのキャリアを実現するための多くのチャンスが存在します。ぜひ一緒に働く機会を創れればと思いますので、チャレンジをお待ちしています。

■私の1年間のプロジェクトストーリー

8月～4月	<p>クライアント業界: 大手航空業</p> <p>プロジェクトテーマ: アジア領域の組織高度化支援</p> <p>エピソード: 業務標準化を通じて高付加価値業務へ移行するための戦略を立案した案件です。戦略を立案するのみならず施策立案から導入まで支援させて頂き、クライアント複数人に加えて1人で複数の海外拠点を訪問の上、現地の職員と議論を重ねたことが印象的です。</p>
5月～7月	<p>クライアント業界: 大手製造業</p> <p>プロジェクトテーマ: 新原価計算/管理手法の構築</p> <p>エピソード: 非常に身近にある製品の原価計算の仕組みを構築した案件です。当たり前と思える一方で、実は原価管理が非常に難しいという実態を知ることができ、原価という極秘情報に触れ、また企業経営にファイナンスの視点が必要不可欠であることを痛感したことが印象的です。</p>
12月～3月	<p>クライアント業界: 大手製造業</p> <p>プロジェクトテーマ: 間接部門の高度化に向けた全社組織改革</p> <p>エピソード: 企業としての、あるべき姿を定め、全社の組織構造改革を行った案件です。Global Business Service(GBS)という世界最先端の組織を構築しており、また我々の検討結果がクライアント従業員1人1人の人生に影響を与え得る、というコンサルタントの責務の大きさを改めて感じたことが印象的です。</p>

100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

合同会社デロイトトーマツ

GRC／オペレーショナルリスク マネジャー 〈2007年9月入社〉

独立系SI企業出身

内部監査・内部統制／異業種からの転職／育児との両立／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.GRCの仕事内容について教えてください。

A. GRCに所属し、不動産業界のお客様を担当しています。業務内容は大きく分けて2つあり、1つ目が個人情報やマイナンバー、情報セキュリティに関する管理体制の構築や内部監査の支援。

2つ目が内部統制報告制度（J-SOX）のサポートです。

前者は、経済産業省が公表する情報セキュリティ関連の基準や個人情報保護委員会が公表するガイドラインに従い、社内のルールを作成するところから、実践、内部監査、是正措置等の支援を行っています。

また、後者では、お客様の実態に合わせて経営者評価業務をサポートしています。

トーマツの業務は会計監査が主軸となっていますが、リスクアドバイザリーは会計以外の部分でも、お客様と一緒により良い方法を考えていくところが醍醐味でもあり、難しいところでもあります。

Q.リスクアドバイザリーを選んだ理由は？

A. 以前は独立系のSI企業で金融機関のシステム構築やセキュリティ設計をしていました。

ですから、入社前はこれまでとまったく違う業界・業務に自分が対応できるのか不安もありましたが、それ以上に幅広い業務や知識に触れられる点に魅力を感じたのが、リスクアドバイザリーを選んだ理由です。

偶然ですが、前職の頃に簿記や財務諸表論、財政論などを勉強し、システム監査の資格も取っていたことが入社後は非常に役立っていますし、入社後は充実したデロイトの研修プログラムを活用しながら、業務に必要な知識を身につけていくことができました。



Q.子育てと仕事をどのように両立させているのか教えてください。

A. 私には2歳になる息子がいるのですが、現在はFWP制度（フレキシブル・ワーキング・プログラム）を利用しています。これはライフステージに応じて休職や業務量軽減、業務時間軽減などを申請できる制度で、私は業務軽減を選択して、クライアントに伺わなければいけない案件を減らし、急ぎではない社内業務を増やしてもらっています。

また、子どもがまだ小さく、急な病気などでお休みすることもあるので、プロジェクトを担当する際は、なるべくバックアップを受けられるような体制を組んでいただいています。子どもが小さいうちは、仕事の第一線から外れて働く方も少なくないと思うのですが、その場合、キャリアが一時的にストップしてしまうことにもなります。私は、出産後も仕事内容は変えずに、業務量や時間で調整して、「細く長く」キャリアを構築したいと考えていたので、今の働き方は理想的ですね。それにデロイトでは子育てに関する制度は女性に限らず男性も利用しやすく、遠慮しなければならない雰囲気はまったくありませんから、安心して今の働き方を続けることができます。



Q.今後の目標を教えてください。

A. 今、介護が必要な家族がいるのですが、今後のことを考えると公的なサポートや会社の制度も利用しながら、子育てと介護、そして仕事も続けることが理想です。

上長の方も、一人一人のライフステージに合わせて成長することを期待してくれているので、業務量や内容を相談すると、チャレンジも、セーブもさせてもらえる風土があります。

100か0かではなく、場合によっては60でいいという働き方ができる制度があるのは、子育てや介護を考える上で、大きな安心感につながります。

仕事に子育てに介護と、すべてをこなすのは大変ですが、同時にそれぞれが良い意味での気分転換にもなります。今、デロイトにも子育てをしながら働いている女性もたくさんいますし、今は別の会社で働いているけれど、子育てや介護をしながら、デロイトで働いてみたいという女性もたくさんいらっしゃると思います。私が実践することで、デロイトならこういう働き方ができるということを知っていただけたら、嬉しいです。